

# 本吉地区研究のまとめ

## 「生活で活用できる力」の育成を目指して

### －「つながり」を生かす指導の工夫－

本吉地区教育研究会技術・家庭科部会  
研究部長

気仙沼市立松岩中学校 教諭 伊藤 浩志

#### 1 はじめに

宮城県技術・家庭科部会が平成26年度から進めてきた「生活で活用できる力」の育成を目指してという研究主題を受けて、本地区でも「つながり」を学習内容と生活（学校生活・家庭生活・社会生活）との結びつきやかかわりとしてとらえ研究を進めてきた。昨年度の「つながり」深める指導の工夫から今年度の副題である「つながり」を生かす指導の工夫につなげていきたいと考えた。

#### 2 研究のねらい

「生活で活用できる力」を育むため、学習内容と生活の関連を図った指導の充実を、実践をとおして明らかにする。また、技術・家庭科の学習内容は、家庭、学校、地域と結び付いている。しかし、生徒自身はその実感が薄いというところに本地区の課題がある。そこで、その結び付きを再認識させ、関係を深めていくことが生活で活用できる力の育成につながると考えた。以上のことを踏まえ、昨年度からの継続として以下の取組を工夫し、研究のねらいにせまりたいと考えた。

○基礎的・基本的な知識・技術の習得

○問題解決的な学習 ○実践的・体験的な学習

○言語活動の充実 ○地域・学校などの連携

＜実践例＞東北大会発表事例からの研究のねらい

『エネルギー変換の授業をとおして、学校と家庭のかかわり（つながり）に重点を置き、その「つながり」を明確にし、生かす指導の工夫を行うことにより、生徒に生活をより良くする力（活用できる力）を身に付けさせる』

＜研究主題に沿っての具体的な手立て＞

- ・生活に生かしやすい身近な題材の設定
- ・個の思考の変化と生活で活用した内容が記述できるワークシートの工夫
- ・共に学び、横の「つながり」を意識した話し合い活動の工夫

#### 3 研究の内容

(1) 研究の概要

○基礎的、基本的な知識・技術の習得について  
小題材から本題材へ製作を進める流れを実習に取り入れ、授業展開するなど、身に付けた知識を自主的に活用して、技能を確実に習得させるようにしている。また、その題材が生活の中でどのように活用できるか、考えさせる場面も設定している。

題材と題材の「つながり」を意識した指導の工夫

○問題解決的な学習について

普段の生活の中で起きる様々な課題を解決していく上で、必要となってくる自ら課題を発見し解決しようとする力を高めるために、生活に生かしやすい身近な題材を設定する。

一例：テーブルタップ

生徒と題材の「つながり」を意識した指導の工夫

○実践的・体験的な学習について

つくったものを生活の中で利用することを前提にして課題に取り組んでいる。

題材と家庭生活の「つながり」を意識した指導の工夫

○言語活動の充実について

グループ学習を取り入れている学校がさらに増えてきた。課題の解決方法を集団で考えさせたり、話し合わせたりする中で、より良い解決策や発表する場をつくっている。また、自己の思考の変化を可視化したワークシートを使用するなど、より具体的に自分（生徒）が実践する内容をまとめることができるようにする。

生徒と生徒の「つながり」を意識した指導の工夫

○地域・学校・家庭などの連携について

少人数で教員が集まる機会を設定し、学校間での情報交換や教材研修なども継続して実施している。また、学習前の実態調査や学習後の家庭での実践内容を確認できるワークシートなどを活用している。

題材と家庭(家族)の「つながり」を意識した指導の工夫

## (2) 研究の方法

①本吉地区技術・家庭科部会の研修会等で研究の方向性を確認し、会員各自が研究主題に沿った授業実践を主体的に進める。

②研究会や研修会に積極的に参加し、自己研究を進めるとともに会員相互の情報交流を行う。

③指導力向上のため指導者自らが実生活にかかわる経験を豊かにするための実技研修を行う。

## (3) 研究の経過

5月 地区総会 津谷中学校  
○今年度の活動について

8月 一斉研修 面瀬中学校  
○宮城石巻大会についての検討

11月 宮城県石巻大会(河南東中学校)  
○分科会Ⅱの発表等(本吉地区)

## 4 研究のまとめ

題材と題材のつながりを意識した指導を展開することによって、「気付く段階」「考え・学ぶ段階」「生かす段階」それぞれの具体的な手立てを考えることができた。それによって、生活に活用する能力と態度の向上がみられた。

生徒にとって生活の中にある身近な題材に目を向けることは、気付きや発見を促すもので、知的好奇心を高める効果があると考えられる。

生活に生かしやすい身近な題材を設定したことは、実生活に沿って具体的に考えるきっかけづくりにもなったと考える。「生活に必要な知識や技術だ」という意識付けをどのように生徒にしているか、教える側の認識をさらに強めることができ

た。

自分の言葉で説明したり、他者に伝えたりする力は、課題を解決する力にはかせないものである。ペアやグループ学習をどのように授業の中に取り込んでいくのか、技術・家庭科の切り口からも検討していく必要があった。その切り口のひとつとしてつながり学習を意識し、自己の思考の変化を可視化した実践は、「対話的な学び」や「主体的な学び」につながるものである。

以上のことを踏まえ、時間配分と指導内容の精選等を図り、効率的に生徒が取り組める実習を考えていきたい。

震災から5年が過ぎ、以前の風景が記憶の中から薄れかけているように感じる。しかし、生活環境が変化し、その変化に順応していかなければならない状況に変わりない。変わりゆく地域の支えとなる人材を育成していくために、自分たち(教師・生徒ともに)に何ができるかという視点で日常生活と学習内容の「つながり」について考え、実践することができた。今後も「つながり」を意識した持続可能な社会を構築していこうとする態度を育てていきたい。

地域の復興につながる学習内容を考えることが、生活で活用できる力の育成にもつながると考える。その視点を今後も検討していきたい。

食育と防災教育をつなげた授業展開を実践している学校もある。修正と改善をとおして、生活に活用できる力を育成する視点から、復興教育にも結びつく指導内容を今後も考えていきたい。

今年度の一斉研修の中でも、各学校に技術・家庭科の教員がそろっている学校はほとんどないことや非常勤講師だけの学校に対してどのように共通理解を図っていくかという課題が出てきた。昨年度からの継続課題ではあるが、年度毎に変わる状況把握と対応策を検討していきたいと考える。

<中教審から>

学ぶ本質的な意義を明確に

技術の見方・考え方

生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること

この見方・考え方を念頭に置き、今後も研修、研鑽に励んでいきたい。